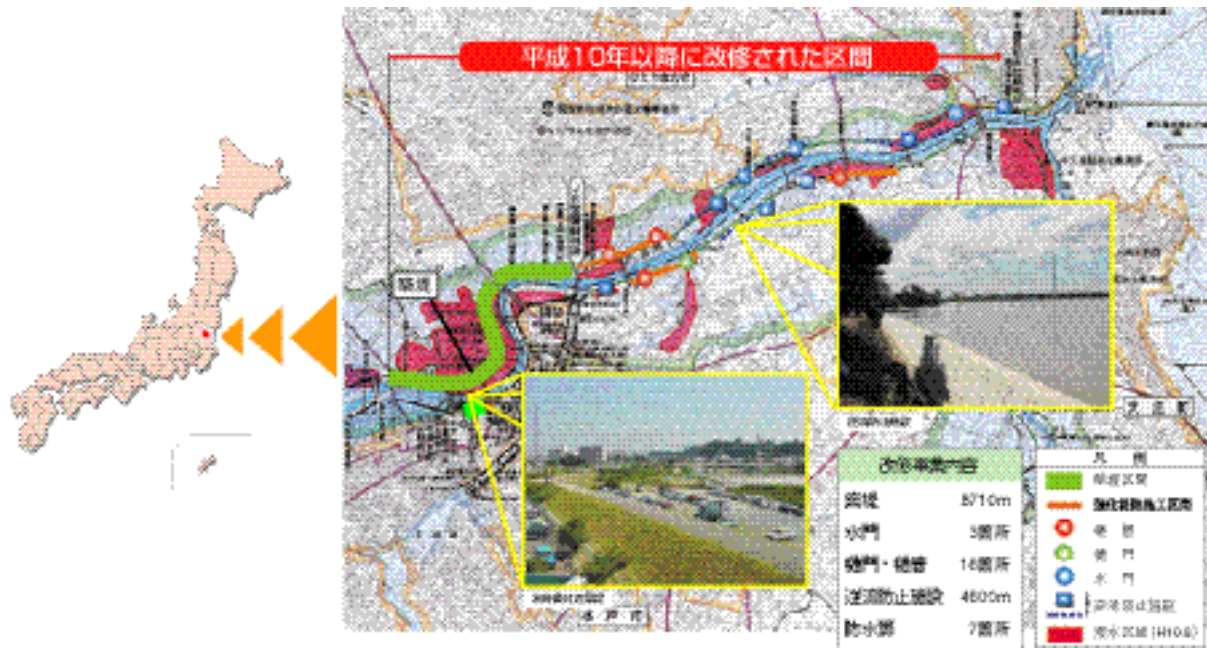
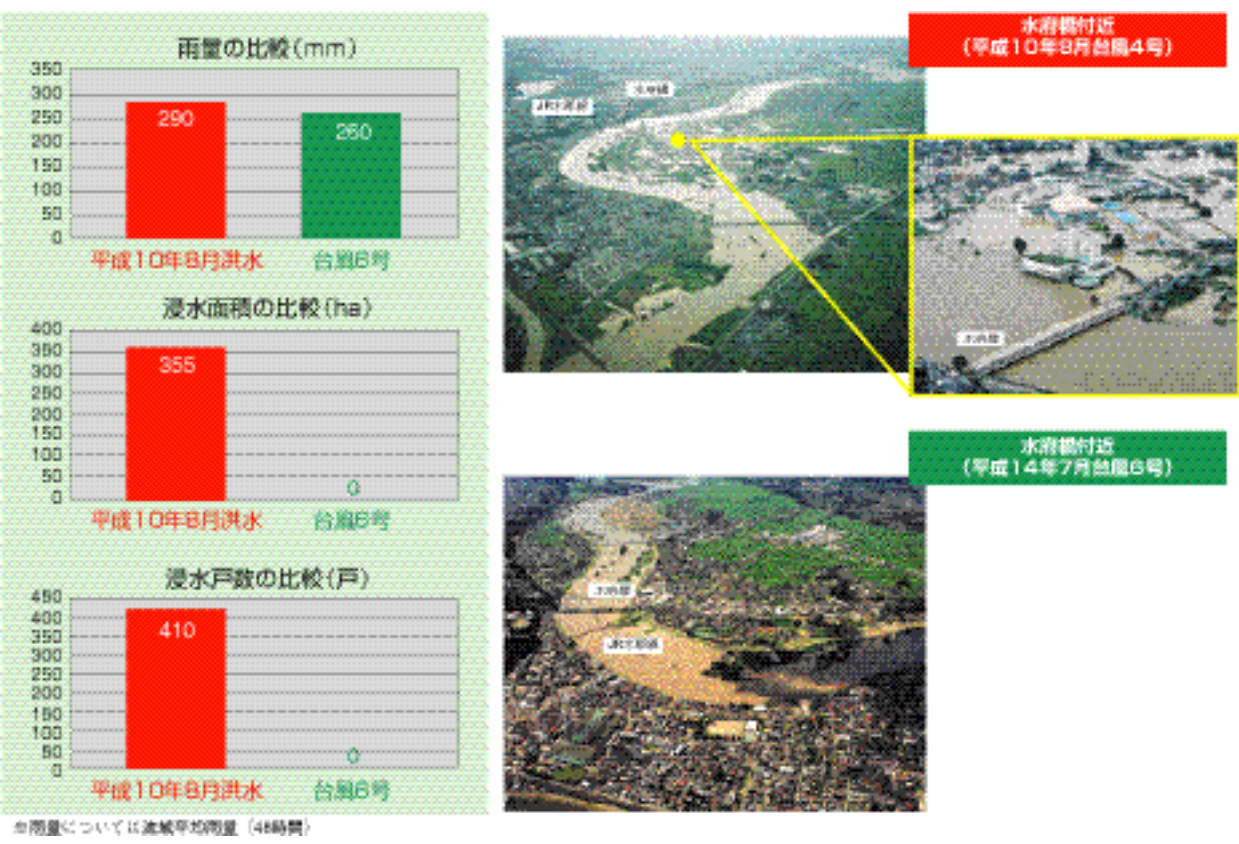


那珂川改修事業の効果について

那珂川は昭和61年8月洪水や平成10年8月洪水で、下流部に甚大な被害を受け、その対策として那珂川下流部（水戸市・ひたちなか市）において「那珂川緊急改修事業」等の改修事業の推進を図り、平成14年3月で一連区間の堤防等の施設が概ね完成しました。



平成14年の台風6号による水府橋地点（水戸）の最高水位と雨量は、平成10年8月とほぼ同程度でしたが、改修事業の効果により浸水被害はありませんでした。

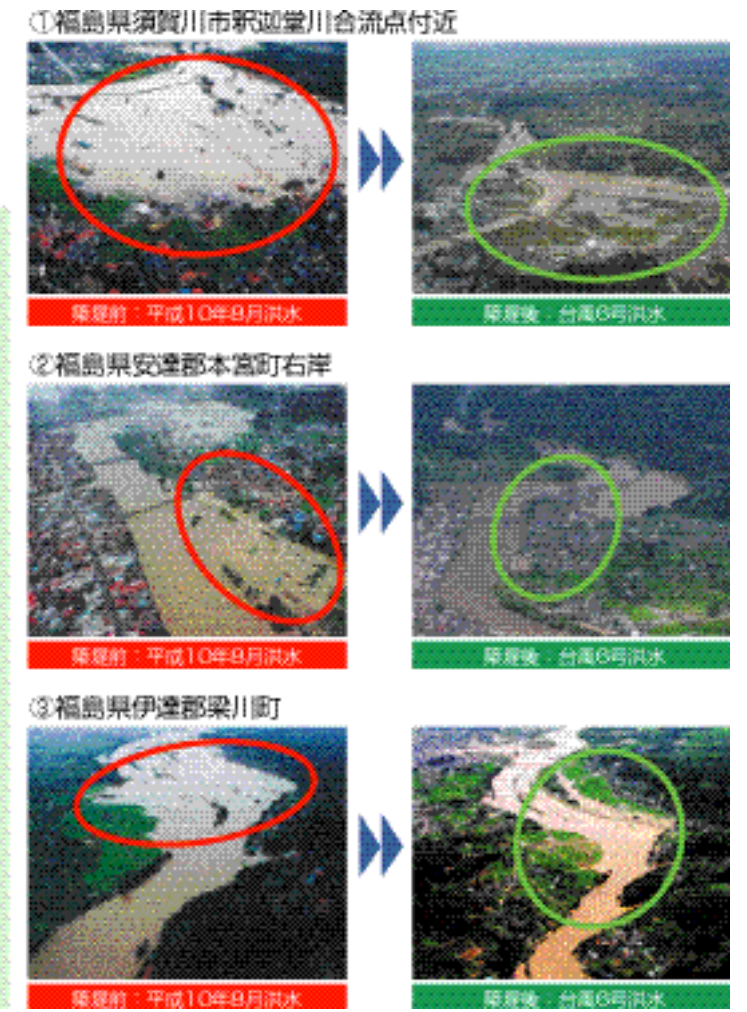
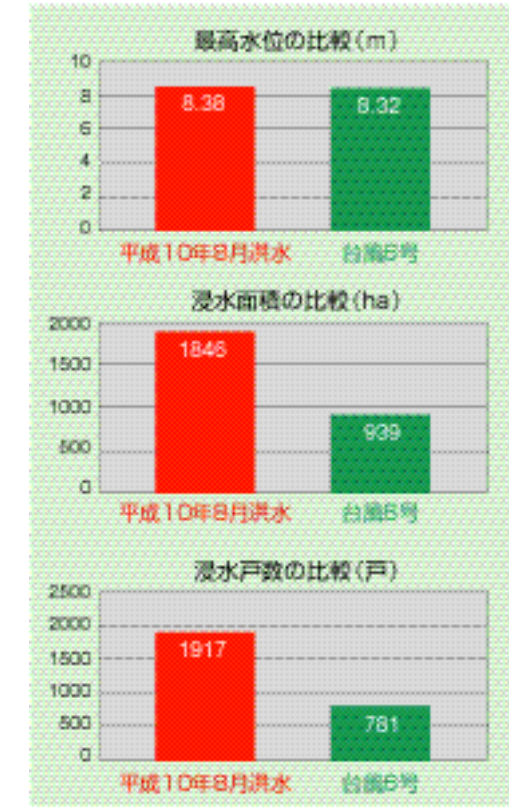


阿武隈川の改修効果について

「阿武隈川平成の大改修」は、平成10年の8月洪水及び9月の台風5号洪水による浸水被害を解消するため、阿武隈川の抜本的な改修を平成12年度末までに実施したものです。

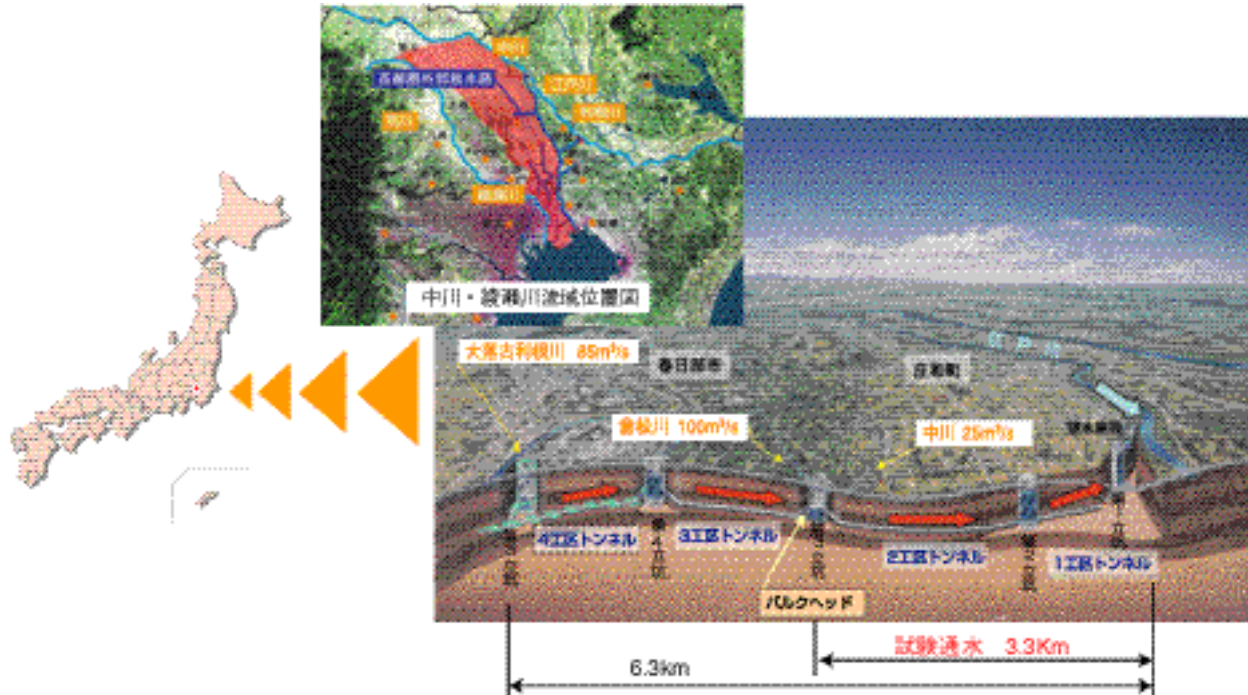


平成14年の台風6号洪水は、平成10年8月洪水と概ね同規模の洪水でしたが、被害を比較すると、浸水面積で907ha、浸水戸数で1,136戸の大幅な減少が見られました。

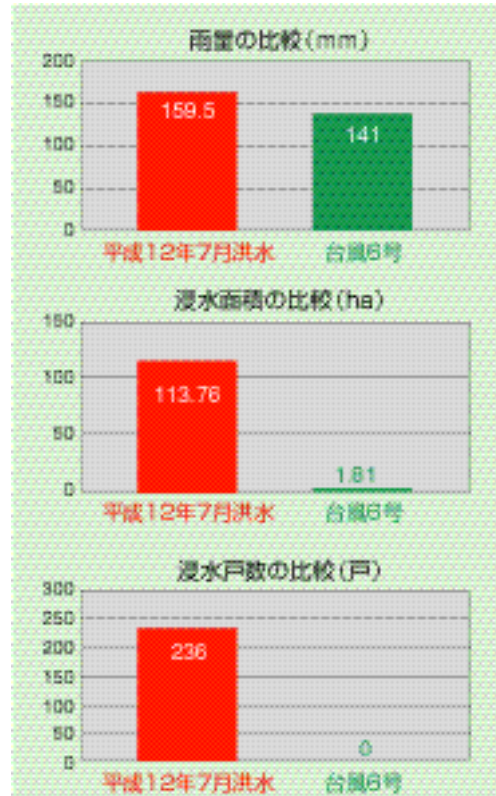


首都圏外郭放水路の効果について

首都圏外郭放水路は中川中流部の国道16号の地下50mに直径10mのトンネルによる地下河川を6.3km（埼玉県春日部市～庄和町）建設し、中川等の水を江戸川に排水することによって浸水被害を大幅に軽減するものでこの内3.3kmについて平成14年6月8日に試験通水しました。

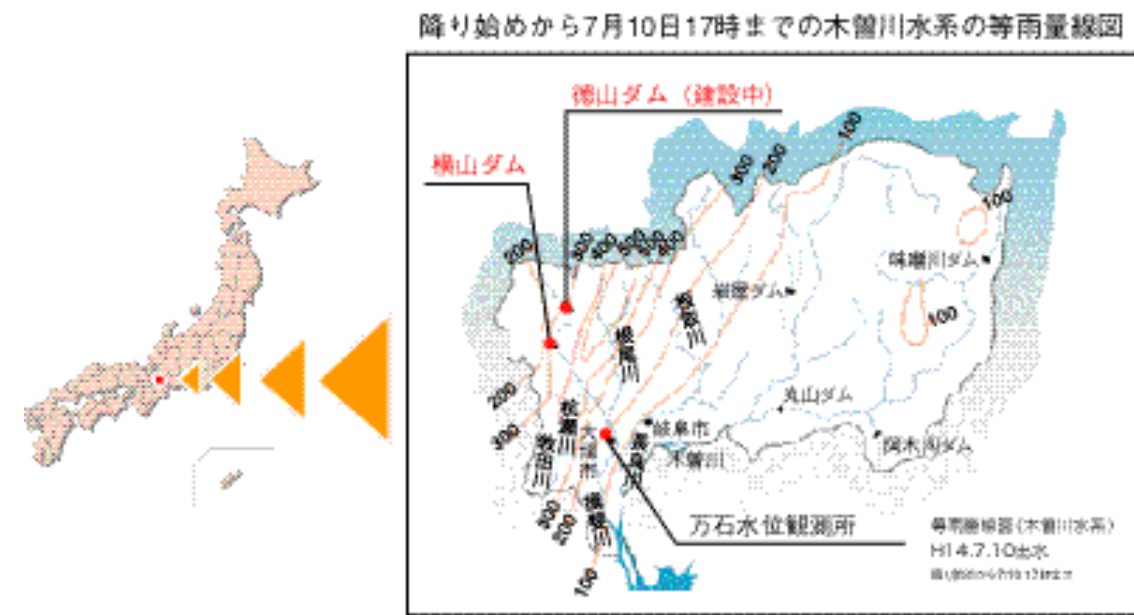


平成14年の台風6号により中川・綾瀬川流域では、平成12年7月とほぼ同規模の141mmの雨量を記録しました。当時と比べ、首都圏外郭放水路の試験運用により、その周辺地域での浸水家屋が無くなりました。



ダムによる水位低下効果について

平成14年の台風6号のもたらした雨は、揖斐川流域平均で総雨量300mm以上となり、万石水位観測所では計画高水位を超える出水となりましたが、横山ダムの治水効果により溢水を食い止めることができました。徳山ダムが完成していれば、計画高水位以下に水位を抑えることができたと考えられます。



横山・徳山ダムによる揖斐川の水位低下効果

平成14年の台風6号による出水において、横山ダムにより、基準地点の大垣市万石地点では54cm（水位差）水位を下げる事ができました。

平成14年の台風6号による出水において、横山ダムによる水位低下効果がありましたが、徳山ダムが完成していれば、横山ダムと同様に水位低下効果が期待できます。その場合、基準地点の大垣市万石地点で今回の水位よりさらに43cm（水位差）下げることができ計画高水位以下にすることが出来たものと考えられます。

